令和５年度学校評価

本年度の 重点目標	1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 2 自立と社会参加を促す教育活動の推進 3 安全・安心な学校づくり 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 5 センター的機能の充実 6 仕事の効率化、勤務時間の適正化を図る		
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
小学部	児童の「個別最適な学び」「協働的な学び」に必要な環境を整えます。	1 児童の多様な実態に応じた指導の実践、検証、改善を小学部全体で進めます。 2 できるだけ多くの人と一緒に学べるような学習活動を、積極的に計画します。	1 習熟度や病気など、個別の実態に合わせ、オンライン授業や対面授業を組み合わせて実施できました。低学年、高学年、重複障害学級の在籍状況の変化に合わせ、集団学習のグルーピングを工夫しました。また、オンラインによる音楽交流や外国人講師を招いての国際交流など、専門的で体験的な活動を実施できました。 2 石ヶ瀬小学校との交流では、交流当日だけでなく、オンラインによる休み時間交流も実施しました。回数を重ねる度に仲よくなっていき、交流当日に向け互いの理解を深め、期待感が高められました。 5、6年生による宿泊学習は、トヨタ博物館、あいち航空ミュージアム、レゴランドの見学、体験活動を実施しました。協力して事前学習を進め、当日を計画どおりに楽しむことができました。事後学習では、部集会で思い出を発表するなど、学習の成果を部全体で共有する場を設けることができました。
中学部	1 基礎的・基本的な学力の習得を確実に行うとともに、集団で活動する中で、自らの課題に気付き、個性の伸長を図ります。 2 思春期の発達課題を念頭に置き、他者とよりよい人間関係を築く力を育みます。	1 生徒の実態や学習状況を適切に把握し、学習集団を工夫するなど、きめ細やかな指導を行います。 2 ICT機器を活用し、校内教育、BS学級、施設内教育学級で同時双方向型通信を使った授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。 3 集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり合意形成したりする経験を、多くの生徒ができるよう支援します。	1 生徒の入院予定や学習状況及び実態を把握し、教師間で共通理解を図りながら、個々に合わせた学習しやすい環境づくりをすることができました。 2 部集会や道徳の授業でICT機器を活用するなど、集団で学び合う環境と対話的、協働的な活動の充実に努めることができました。 3 一人一人の生徒に寄り添って気持ちや悩みなどを受け止めることで、生徒の主体的な学習に向かう態度や円滑な人間関係の構築につなげることができました。
高等部	1 新学習指導要領の完全実施を見据え、評価の観点にうたわれる「主体的に学習に取り組む態度」を育む授業づくりを目指し、授業改善に取り組みます。 2 在学中に成年年齢にさしかかる高等部段階の生徒として、社会自立を意識した教育活動に取り組みます。	1 授業の中に話し合い活動を積極的に取り入れ、個に応じた意思表出機会を設けていきます。 2 周囲から肯定される経験を積めるように、積極的に授業の中で振り返り活動を設けていきます。 社会で生活するのに必要とされる力を考え、個々の課題を高等部職員で共有した上で、課題解決に向けた取組を学校生活の中で繰り返し行います。	1 主体的な学習態度のあらわれを目指し、意思表出の機会をできるだけ持てるように試みました。話し合い活動をはじめ、様々な場面で互いを認め合いながら自分の思いを表出する状況は増えつつあります。 2 成年年齢にさしかかる高等部段階として、どのような支援が望ましいのか、様々な取組を試行しています。昼休みの清掃の時間には、クラスごとに清掃箇所を割り当て、それぞれのできうる役割を一生懸命に取り組む習慣づけができました。授業や日常の中で、社会へ出て行くという意識を持てるよう、部の職員で課題意識を共有し取組を試行しています。今後は、給食の配膳など、毎日の生活にかかわる活動に全て自分が関与する態度を持てるよう取り組んでいきたいと考えています。
施設内教育 名大 藤田 中京	児童生徒の個々の治療状況に応じた学習環境の整備に努めます。	治療の間隔が長く空く際の交流教育や、病室から外出できない際のベッドサイド授業など、個々の状況に柔軟に対応できるように環境を整えていきます。	交流教育については、感染症対策の関係で当初の予定通りには進めることができませんでしたが、修学旅行については、前籍校と綿密な連携を図り、入院中の児童生徒も参加することができました。ベッドサイド授業には、学習保障を主眼に置き、訪問部と連携しながら柔軟に対応することができました。
訪問教育	1 児童生徒の一人一人の実態に応じた授業作りをします。 2 病院等の関係機関と密にコミュニケーションを図り、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。	1 児童生徒の体の動きや認知の特性、学習状況等を的確に把握して授業を実施します。 2 担当者間で、児童生徒の情報を共有し、実態にあった支援の目標・内容・方法を検討します。 電話やメール、また同時双方向型通信や病棟との連絡ノート等を積極的に活用し、児童生徒の状況について共通理解を図れるように努めます。	1 児童生徒の心理的・身体的な状況等について、病棟関係者等から情報を得て、実態に応じた授業を検討し実施してきました。今後も児童生徒の状況に寄り添いながら、柔軟に状況に応じた授業ができるように努めていきます。 2 担当者間で児童生徒についての情報交換を頻繁に行い、実態に応じた授業が実施できるように努めてきました。今後も児童生徒に合った言葉掛けや授業展開、また教材教具を工夫するなどで学習意欲を喚起することができるような授業改善を継続していきます。 病棟等の関係機関と連絡帳や電話、また情報交換会やカンファレンス等で積極的にコミュニケーションを図り、情報共有に努めてきました。メールを活用した情報交換も始めましたが、個人情報の取扱いの課題があり、今後の検討課題です。

総務部	1 魅力ある教育活動の情報発信に努めます。 2 保護者にとってより有意義になるようにPTA活動を進めます。	1 学校だよりや校内掲示、メール配信システム等を利用して、活動の様子を具体的に発信していきます。 2 保護者のニーズと照らし合わせながら、保護者と教職員で連携し、PTA活動の活性化に努めます。	1 今年度の文化祭は、4年ぶりに体育館で舞台発表を行うことができ、児童生徒たちは日頃の練習の成果を保護者に見てもらうことができました。その様子は校内掲示や学校だよりで、写真のレイアウト、コメントを多めに掲載し、児童生徒の様子が生き生きと伝わるように工夫することができたました。 2 第2回の PTA 研修会では「大規模災害が発生したら」というテーマで大府市の危機管理課の方に講演をいただきました。たくさんの保護者が来校し、いつ起こるか分からない災害に対する常日頃からの備蓄や避難場所の把握など、自分の安全を守る取り組みについて学びました。来年度も、アンケートで得た保護者の希望を踏まえて研修会を行っていきます。
教務部	オンライン授業の実践を基に、児童生徒の実態に合わせオンラインを適宜使うハイブリッドな授業展開を進めます。	1 各部ごとのオンライン授業実践を報告し、研修を行います。 2 オンライン授業の取り組み方の見直しと改善を図ります。 3 対面授業とオンライン授業、それぞれのよさを生かし、児童生徒の実態に合わせた指導を展開します。	1 校内における成果や課題等の共有は基より、全国的な課題等も共有することで、 現状すべきことや実施可能なことが明確となり整理することができました。 2 授業計画や実践方法、評価の在り方など、職員間で検討する機会が増えました。 3 児童生徒の実態や指導形態がさまざまなため、 なかなか組織的な取組ができませんでした。今後は実践に伴う課題や成果、教育時事の動きを共有し、よりよいオンライン授業の実践につなげていくよう努めます。
自立活動	多角的な視点で児童生徒へのさまざまなアプローチ方法を見つけます。	児童生徒の心身の状態や支援方法を多角的に考えるようにし、より的確な支援が行えるようにします。児童生徒の強みを生かすことができるような活動内容の工夫を行い、自己理解や自己管理の力がつくように支援を進めていきます。	複数の職員で目標を明確にして指導・支援を進めることで、児童生徒に対して一貫した指導を行うことができました。自身の目標を意識して活動に取り組む姿が見られるようになりました。来年度は、さらに児童生徒の強みを生かせるよう個別の教育支援計画の丁寧な作成や活用は基より、職員間でしっかりと共有ができるツールを作成していきます。その上で、さまざまな場面で力を発揮できるよう指導・支援を充実させていきます。
生徒指導部	児童生徒が安心・安全に関するさまざまな課題に関心をもち、主体的に安心・安全な生活の実現を目指すことができるような学校づくりに努めます。	1 避難訓練や保護者引き渡し訓練、定期的にシェイクアウト訓練等を実施し、児童生徒の防災への意識を高めていきます。 2 情報モラル教室や交通安全教室等を通して、児童生徒の危機管理における意識を高めていきます。 3 各部会での児童生徒の情報共有及び部間、関連分掌との連携を図ります。児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。	1 今年度は、避難訓練を2回、保護者への引き渡し訓練、またシェイクアウト訓練を3回実施し、防災に対する意識を高め、自ら身を守るために迅速に対処する習慣を身に付けることができました。今後も、非常事態発生時に備えた校内体制のさらなる強化に努めていきます。 2 昨年度までの小学部に加え、今年度は中・高等部も警察署員を招いて交通安全教室を実施し、児童生徒が交通安全に対する意識を深めることができました。また、夏季休業中には不審者対応訓練（職員研修）を実施し、児童生徒の実態と本校校舎内の環境を踏まえた防犯体制の見直しに取り組みました。 3 各部会で児童生徒の情報交換を行い、「心のアンケート」の結果を踏まえて適切に対応することで、いじめや心の問題の早期発見に努めています。また、人権週間においては、各部で人権講話を実施するとともに、児童生徒会で啓発動画を作成して、人権擁護に向けた意識を高めました。今後も、各部や他分掌と連携しながら、子どもたちが自身や友達のことを大切に感じることができる学校づくりに取り組んでいきます。
保健体育部	教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます。	1 児童生徒の健康状態の把握や事故防止に努め、児童生徒個々に応じた緊急時の対策等の情報を職員に周知徹底し、共有しながら、より安心で安全な教育環境を整えます。 2 医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が、お互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。 3 日常の健康と安全に対する意識を高め、家庭や病棟と連携を取り、感染症対策や食習慣の重要性を周知していきます。	1 随時校内巡視や毎月の安全点検を行い危険箇所の早期発見に努め、危険性のあるときは職員に周知し対応するなど、安全な教育環境の整備に努めました。ヒヤリ・ハット案件は昨年度より少なくなりました。 2 医療的ケア、食物アレルギーについては、各部会や委員会等で、安全を最優先した取組となるよう検討し、その情報を全校体制で共有しました。 3 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの情報等を迅速に文書やメールで保護者や職員に伝えることで、二次的な感染の予防に努めました。給食については、給食前健康チェックを習慣化することで、安全、衛生に留意した給食指導を行うことができました。

進路指導部	生徒の実態と生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。	1 学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施します。生徒・保護者のニーズを把握し、必要な情報を的確に提供するとともに進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。 2 地域や関係機関との連携を図り、見学、体験、実習等の活動や、多様な進学・就労への個別支援が充実するよう努めます。 3 希望する進路先・居住地関係機関に対して生徒の実態について情報提供することで生徒への理解を深めていただくよう努めます。	1 保護者、生徒を対象に出願制度の変更や進学・就労までの過程を中心とした説明会を行いました。進路決定に向け、個別懇談及びカンファレンスを行い、きめ細かく丁寧な支援を行いました。 2 病棟関係者、障害者相談支援センター、児童相談所など関係機関との連携を図り、児童・生徒・保護者のニーズを踏まえた進路選択ができるように支援しました。 3 志望校に対し事前相談を行い、実態に合わせた受験上の配慮を確認しました。また、進路先への見学・実習を行い、生徒理解を深めていただくだけでなく生徒の学びを深める機会としました。
教育支援部	児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実を図ります。各関係機関との情報の共有化、連携の充実を図り、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。	1 職員研修を計画、実施し、児童生徒の適切な支援につながる教職員の資質向上を図るとともに、必要な情報の提供を行います。 2 夏季公開研修として、医療と連携した研修会を企画し、地域の教育関係者に公開します。	1 夏の職員研修では外部講師を依頼し、「スクール・カウンセリングについて」「スクール・ソーシャルワークの実際」等の研修会を実施しました。参加者から「勉強になった」等の声も多く、学びある研修会を実施することができました。 2 夏季公開研修では愛知県精神医療センターの医師に協力していただき「精神障害を抱える児童生徒への対応」に関する講演会を開催しました。本校職員を対象にした事前アンケートをもとに講演をしていただくことができ、ニーズに合った研修会となりました。
教育情報部	ICT環境を整備し、児童生徒の学ぶ力、教師の指導力を効率よく引き出すための取り組みや、職員が業務を円滑に行うための取り組みを行います。	1 コラボノートなどの教育系クラウドの環境を整え、本校や施設内教育、訪問教育で教育を受ける児童生徒への学びの保証ができるようにします。 2 校内ネットワークの整備や運用を行い、職員や児童生徒がより快適に学習に取り組める環境を目指します。 3 他の分掌と連携しながら、新校務支援システムの運用について、環境を整えサポートします。	1 コラボノートを使い、本校や施設内教育、訪問教育で教育を受ける児童生徒への教育的機会の維持や向上に取り組むことができました。 2 体育館への校内ネットワーク敷設を完了し、職員や児童生徒が利用しやすい環境づくりをすることができました。また担当部署と連携を取り、パソコン室のパソコン、プリンターのリース更新を終えることができました。 3 新校務支援システムの運用準備や今後の活用方法についての検討を進めることができました。
総合評価	1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 ICT 機器を活用した同時双方向型通信やコラボノートなどの共同学習アプリケーションを活用することで、授業や交流、運動会、文化祭など児童生徒の協働的な学習が広がりました。職員の夏季休業中の職員研修を計画的に行い、支援力の向上に努めています。 2 自立と社会参加を促す教育活動の推進 同時双方向型通信を利用した交流校との交流や対面での交流の継続や、コロナが2類から5類に移行したことを受け、感染症対策をしながら、校外学習、遠足、社会見学、アビリンピック見学、職場見学会等の行事を実施することで、学習の機会を確保することができました。 3 安全・安心な学校づくり 感染症対策の対応を保護者と共有し感染予防に努めました。避難訓練、不審者対応訓練、引き渡し訓練を実施し、安全・安心な環境の確保に努め、防災・防犯に対する意識を高めることができました。 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 感染症対策を始め、保護者、各病院等の関係機関との連携を密にし、授業や行事などの情報を共有することで学習の機会を確保することができました。 5 センター的機能の充実 県内幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校等職員、院内学級関係者への研修を開催し、情報発信をすることができました。地域の小中学校への巡回相談や各種委員会への協力等関係機関と連携し情報交換に努めました。医教連携コーディネーターを中心に、病気療養中の高校生の支援を、高等学校や各病院等の関係機関と連携し、適切な支援行うことができました。。 6 仕事の効率化、勤務時間の適正化を図る 毎週行ってきた会議を隔週実施にしました。会議等を計画的に進めることで校務の効率化につながりました。今後も職員の健康に留意し、業務の精選、効率化を考えた見直しに努めていきます。		